

## 平成24年第6回定例会一般質問通告書

- 通告1番 大 瀧 りう子 議員  
質問方式 一問一答方式
- 1 件目  
質問事項 災害公営住宅に町独自の支援を  
質問の相手 町長  
質問の要旨 町から示された災害公営住宅家賃では高すぎて入居できないという声が聞かれる。入居者の環境を整えるためにも次の点を伺う。
- ① 集落毎の高台移転地に公営住宅建築の考えは。
  - ② 公営住宅の居住面積を広くする考えは。
  - ③ 家賃の軽減措置の考えは。
- 2 件目  
質問事項 太陽光発電システムに助成を  
質問の相手 町長  
質問の要旨 災害時の停電に備え、また、自然環境と調和した町づくりには太陽光発電システムの普及が必要と考える。町の助成の考えを伺う。
- 通告2番 高 橋 兼 次 議員  
質問方式 一問一答方式  
質問事項 南三陸町震災復興計画について  
質問の相手 町長  
質問の要旨
- ① 被災した漁港及び海岸保全施設の早急な整備が求められているが復旧工事計画の進捗は。
  - ② 犠牲者を鎮魂するとともに自然の脅威と災害の風化防止を目的とする「震災復興祈念公園整備」と「震災復興モニュメント整備」の考え方は。
  - ③ 災害公営住宅整備と個別移転者への町独自の支援を急ぐべきと思うが町長の考えは。
  - ④ 緊急避難施設と避難道路の整備計画は。

通告3番 千葉伸孝議員  
質問方式 一問一答方式  
質問事項 高台移転の問題点と早期実現について  
質問の相手 町長  
質問の要旨 ① 志津川市街地制限地域の土地買取は居住地が基本となる。商業用地に関しては、整地後の市街地に代替地としての換地が行われる。これに関して、商工用地も買い上げとはならないのか。また、土地の融資担保としての活用はできないのか。  
② 土地の買取価格は地域によって格差があり、高台の土地取得や住宅建築にあたり多くの資金が必要となる。高台移転に対する町独自の生活支援策の考えはないのか。  
③ 志津川地区土地利用計画によると、東地区が平成26年度中頃以降、中央地区と西地区が平成27年度中頃以降に住宅建設可能と、高台移転の整備スケジュールが案として提示されている。その中に災害公営住宅も4カ所に平成26年度以降、順次入居開始となっているが、高齢者の入居希望も多く、この部分だけでも早期の建設とはならないのか。

通告4番 菅原辰雄議員  
質問方式 一問一答方式  
質問事項 観光産業復活への戦略は  
質問の相手 町長  
質問の要旨 震災前、当町には年間100万人を超える観光客が訪れていた。より多くの人にと、グリーンツーリズムや教育旅行の受け皿にと、人材育成や施設整備など体制整備を行ってきた。いざこれからというとき地震、津波によりほとんどが消滅した。発災から1年3ヶ月が経過、復旧、復興へ確かな歩みを始めている。  
観光を産業と位置づけてきたが、再生への取り組み等の考えを伺う。

通告5番

山内昇一 議員

質問方式

一問一答方式

1件目

質問事項

町民の望む早急な高台移転と復興対策は

質問の相手

町長

質問の要旨

- ① 志津川・戸倉・歌津全地区の十分な町民の望む場所への高台移転は可能か。
- ② 定住化対策としての雇用の場の確保はどうか。今後、企業の進出や誘致のためにも各地区、また、現戸倉ゴルフ場跡地、工場団地造成等、積極的な対策で人口減に歯止めは。
- ③ 水産加工場等を町で支援し、最大数の働く場を増やし、また、関連事業所、販売所、さらには三陸自動車道延伸に合わせた道の駅で食材の販売、若い人達等の働く場をつくり、復興としての町のシンボルにはどうかを伺う。

2件目

質問事項

町職員と派遣職員のメンタルケアは

質問の相手

町長

質問の要旨

町職員・派遣職員は現在、町の復興の最前線で新しい町づくりを昼夜仕事に努力勤務しており、震災からのストレス・不幸からメンタル的疲労感の職員も見られる。十分な福利厚生のもと長期戦で本町の復興を望むがどうか。